

外国に長く滞在すると、白いご飯が食べたいなと思うことがあるものです。ところで、米の色は白いものだけだったのでしょうか。

実は、米の色はもともと赤かったと言われています。これは種の保存のためにこのような色がついていました。りんごをはじめ、赤くなる実が多いのは、色で鳥の目を引いてえさになり、種を別の場所にまいてもらうためなのです。

日本に最初に伝わったといわれるものも、赤米が交ざったものでした。赤米は水田だけでなく、畑でも育つ丈夫な米でしたが、味が悪く、収穫量も少ないものでした。この中から白い色をした米だけを人間が選別していくうちに、次第に白い米がホピュラーになっていきました。米は自然界の手を離れ、人の手によるものに変わっていったのです。

それは、生活が米を中心に動き始めたことでもあります。中世以降、米は紙幣の代わりとして使われていました。そこまで日本の生活に根ざしてきた白米。しかし、わたしたちが当たり前だと思っている日本の米も、元をたどっていけば、米の一品種にすぎなかったという見方もできるのです。